

令和3年度青森市社会資本整備評価委員会 会議概要

1 開催日時

令和3年11月4日（木） 13:30～15:00

2 開催場所

青森市役所 議会棟 第1・2委員会室

3 出席者

《委員》

委員長 足達 健夫
副委員長 松野 美智子
委員 大坂 美保、松田 英嗣 計4名

《事務局》

都市整備部 部長 平岡 弘志、次長 佐々木 浩文
都市整備部都市政策課 課長 櫻田 文明 外2名

《案件担当課》

都市整備部公園河川課 課長 土岐 政温 外2名
都市整備部道路建設課 課長 今野 恭男 外3名

4 審議案件

《公共事業再評価》

- ・案件第1号 貴船川都市基盤河川改修事業
- ・案件第2号 3・2・2号内環状線（浜田）街路整備事業
- ・案件第3号 桑原29号線道路整備事業
- ・案件第4号 金浜小畑沢線道路整備事業
- ・案件第5号 岡田橋橋梁整備事業

5 案件資料

《公共事業再評価》

- ・公共事業再評価調書
- ・説明資料

6 会議概要

公共事業再評価について案件第1号～第5号の審議を行ったが、市の評価結果に対し異論はなかった。

以下、主な意見、質疑応答の内容。

発 言 者	内 容
	【案件第1号 貴船川都市基盤河川改修事業】
委 員	5号橋より上流に排水樋門を2基設置することになったのは、どのような経緯からか。
公園河川課	既存の水路の位置に合わせて設置することとしたものである。
委 員	橋はどのような架け替えなのか。拡幅するのか、長くするのか。
公園河川課	スムーズに水が流れるように川幅を広くし、それに合わせた構造、強度の橋を架け替えする。
委 員	費用便益比の算出に当たり、事業を実施しない場合の被害額約720億円はどのように算出したのか。
公園河川課	国が示すマニュアルに基づき、30年に1度の確率で発生する規模の降雨による氾濫想定区域における一般家屋、事業所、農地等の被害額から算出している。
委 員	事業実施に当たっては、環境を考慮した護岸にすると聞いているが、具体的にはどのようなものか。
公園河川課	多自然型環境ブロック（※）を使用するなど、環境に配慮した整備方法としている。 ※多自然型環境ブロック 河川が本来有する植物や生物の良好な成育環境に配慮し、自然環境を保全・創出するため、ブロック内部に空洞や土砂の堆積部を設けるなど、植物や生物の生息域が確保できるような構造のブロック。
	【案件第2号 3・2・2号内環状線（浜田）街路整備事業】
委 員	供用年（令和5年度）における周辺道路の推計交通量が減少しているが、主な理由は何か。

発 言 者	内 容
道路建設課	人口減少によるものである。
委 員	道路の設計速度 60 km/h はどのように設定しているのか。
道路建設課	道路構造令に基づき、交通量と道路の規格等によって設定している。
委 員	<p>当該路線は、青森市の道路ネットワークにとって骨格となる非常に重要な路線である。</p> <p>今後、青森市の人口が減少していく場合、交通量も減少することが予想される中で、相当長い期間で行う計画となっている。</p> <p>大事な計画なので、簡単に中止することもどうかと思うが、その都度の状況に応じて適切に判断していく必要があると思う。</p>
委 員	<p>当該路線の付近は住宅街であり、用地買収に関係する住民や、この地区に来る人たちのことを考えると、事業を続けていただき、早期に供用開始していただきたい。</p>
委 員	<p>用地買収が始まってから 15 年以上が経過しているが、現在の取得率は約 5 割となっており、全ての取得が終わるまで、さらに十数年はかかると思う。</p> <p>人口減少のスピードと道路が完成するスピードのどちらが早いのかという気がする。人口減少が進むと交通量も減少するだろうし、せっかく道路が完成しても利用者が少ない、ということも十分考えられるのではないか。</p>
道路建設課	<p>買収に時間を要していることについては、関係機関からも御意見をいただいているところであり、できる限り早急に進めるべく検討しているところである。</p>
委 員	<p>人口減少の話が出てくると、都市計画全体の話にもなると思うので、当委員会としても、この先の 5 年ごとの再評価において、継続ありきではなく、その都度しっかりと審議をするべきである。</p>
委 員	<p>市の都市計画、ランドデザインの中で、将来的にどの地区に人口を集めたいのか。それとリンクさせて事業を実施していくと良いと思うし、次回の再評価の段階でもう少し踏み込んだ審議ができると思う。</p>
委 員	<p>今日の意見は、今後の事業実施にぜひ生かしていただきたい。</p>

発 言 者	内 容
<p>委 員</p> <p>道路建設課</p> <p>委 員</p> <p>委 員</p>	<p>【案件第 3 号 桑原 29 号線道路整備事業】</p> <p>この場所は田んぼだったが、軟弱地盤工事の工法を教えてください。</p> <p>サーチャージ盛土と言って、自動車の荷重を考慮し、道路よりも高く盛土し、1 年半ほど圧密沈下させて改良する工法としている。</p> <p>国道 7 号線との交差点部分は、関係機関と協議の上、信号を設置する方向と事務局から聞いている。</p> <p>東方面の住民にとっては、この路線が整備されることで、自由ヶ丘・浜館方面への移動がしやすくなる。</p> <p>用地に関する問題はないが、長い目で見ると、案件第 2 号と同様に、再評価の都度、しっかりと審議していく必要がある。</p>
<p>委 員</p> <p>道路建設課</p> <p>委 員</p> <p>委 員</p> <p>道路建設課</p> <p>委 員</p> <p>道路建設課</p>	<p>【案件第 4 号 金浜小畑沢線道路整備事業】</p> <p>八甲田霊園の利用者が増加傾向にあるというのは、何かデータがあるのか。</p> <p>霊園を管理している部署に確認した結果である。</p> <p>お盆の時期には交通渋滞が起きないように規制を行っており、利用者が相当多いのだと思う。</p> <p>細い道路なので、早期に拡幅されたほうが良い。</p> <p>ゴルフ場までは本当に狭く、スピードを出す車が多い。事業範囲はゴルフ場の手前までか。</p> <p>八甲田霊園までである。</p> <p>位置図の赤い点線部分は市道か。</p> <p>市道であり、拡幅工事着手前に流末排水工事を実施した箇所である。</p>
<p>委 員</p>	<p>【案件第 5 号 岡田橋橋梁整備事業】</p> <p>歩行者・自転車用の橋の新設ということだが、歩行者、自転車それぞれの交通量はどのくらいか。</p>

発 言 者	内 容
道路建設課	市が行った交通量調査では、夏の平日で、自転車は 203 台/日、歩行者は約 30 人/日である。
委 員	近隣住民から整備の要望があったのか。それとも、歩行者、自転車の安全性の観点から市が事業対象として決定したのか。
道路建設課	歩道がないため市としても必要性は感じていたが、地元からの要望が多かったことが主な理由である。
委 員	維持管理費が 100 万円と算出されているが、具体的な用途は何か。また、冬期に歩道が雪に埋もれて車道を歩いている人を見るが、除雪はどのような予定か。
道路建設課	除雪は年 5 回を想定しており、維持管理費は、除雪費用及び 5 年に 1 回の橋梁の法定点検にかかる費用である。
委 員	公共事業再評価調書の記載では橋の整備が急務と感じるが、その割には、歩行者や自転車の交通量が少ないように感じる。
事 務 局	当該路線は、青森駅から北高校へ向かう通学路となっており、自転車の多くが高校生であることから、安全面を考えて歩道橋をぜひ整備してほしい、という御要望を以前からいただいていたところである。
委 員	この周辺には様々な事業所があり、事業用の大型車両も走行していることから、高校生の通学路として使われることを考えると、整備は問題ないと思う。